

おけさ柿情報

令和7年7月31日

J A佐渡おけさ柿中央共同選果場

1. かきの干ばつ対策について

連日、高温・無降雨が続き、今後の天候次第では、令和5年度に発生した干ばつの症状と同様の被害が発生する見込みです。向こう3か月の見通しでは平年より気温が高く、高温が予想されることから、下記の対策を行ってください。

(1) 干ばつの影響

干ばつの影響として葉が巻気味になり、ひどくなると葉が垂れ下がってきます。さらに進むと、果実が萎縮し始めます。また、干ばつの影響の見られる樹は干ばつ解消後、生理落果が見られる場合があります。



干ばつによる葉の垂れ下がり



干ばつにより萎縮した果実

(2) 干ばつ時の作業ポイント

- ①雑草は5 cm程度に刈り取り、刈り草は土壌表面に敷き、土壌の乾燥防止に当たる。
- ②仕上げ摘果終了園地では、様子を見て9月中下旬に程度の酷い変色した日焼け果を摘果する。
- ③仕上げ摘果の終了していない着果過多の園地では、不良果実を摘果し、適正着果量にする。
- ④徒長枝は一度に切除せず、段階的に徒長枝整理を行う。
- ⑤幼木・未成木は干ばつの影響を受けやすいので必ずかん水する。また、干ばつの影響の強く見られる園地では定期的にかん水する。水源がある場合、かん水量は10a当たり20～30 tを5日から7日間隔で実施する。水量が確保できない場合は、溝や穴を掘り、穴の中にかん水する。

2. 代表的な日焼け症状

発生初期～中期・・・表皮の色が抜け、白く変色する。進行すると徐々に黄色く変色する。

初期中期の症状の場合は日焼けの進行状況により出荷が可能な場合がありますので、摘果せず残すようにしましょう。



《裏面もご確認ください。》

発生後期・・・表皮が茶色に変色する。茶色く変色した果実は、商品価値がなくなるため、摘果を行う。



日焼け果の明確な出荷基準は、出荷目合わせでお示いたします。

3. 病虫害防除について

- (1) 病虫害予察調査では、カメムシの誘殺数が平年並み～多く推移しています。通常防除を確実に実施し、7月中にカメムシを確認した園地では、必要に応じて臨時防除を検討してください。
- (2) 来年度、カメムシの越冬数を減らす為に、9月に必要に応じて臨時防除を検討ください。
- (3) 前年、うどんこ病が多発した園地では、臨時防除が必要な場合があります。
- (4) 8月下旬に、ハスモンヨトウによる食害痕が散見される場合には、防除暦通りの防除を確実に実施してください。
- (5) 臨時防除の際は農薬の登録条件を遵守し、安全性の確保に十分注意してください。ご不明な点は下記の営農農機課窓口へお問い合わせください。
- (6) 散布者の安全と薬害発生を防止するため、日中の高温時間帯を避け防除作業を実施してください。



ハスモンヨトウ



クサギカメムシ



チャバネアオカメムシ

相 川 74-2061
新 穂 22-3137
岡 津 27-5119

J A 佐渡各営農農機課 T E L

佐和田 57-2522
畑 野 66-3133

金 井 63-3217
真 野 55-1030

営農振興部営農振興課 63-3106